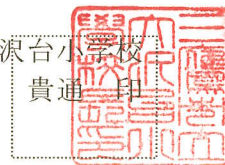


三鷹市教育委員会 様

学園・学校名  
校長 名

おおさわ学園三鷹市立大沢台小学校  
蔵野 貴通 印



令和6年度教育課程について（届）

このことについて三鷹市公立学校の管理運営に関する規則に基づき、教育支援学級（知的障がい）の教育課程を下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

（1）学園の教育目標

地域を愛し、自らの夢に向かって主体的に学び、心身ともにたくましい、国際性豊かな児童・生徒を育成する。

めざす児童・生徒像

- 学び続ける人（自ら課題を発見・解決する力）
- 心身ともにたくましい人（健康・安全・食に関する力）
- 心豊かで共に生きる人（自他を尊重し人間関係を構築する力）

（2）学園の教育目標を達成するための基本方針

より良い学校教育を通じてより良い社会を創るという目標を学園と保護者及び地域社会が共有し、連携・協働して「スクール・コミュニティ」の創造を推進する。

そして個人と社会のウェルビーイングの実現のため児童・生徒の人間力と社会力を主体的に発揮できるようにはぐくむ。

ア 確かな学力をはぐくむ（自ら課題を発見・解決する力）

（ア）各教科等の指導を通して育成する資質・能力を明確にし、教育活動の充実を図る。その際には、児童・生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、「知識及び技能」の習得「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養の三つの柱をバランスよく育成する。

（イ）1人1台の学習用タブレット端末を全教育活動で活用し、オンラインでの学習活動の保障により、一人ひとりの学習における理解状況や能力・適性に応じた個別最適な学びの実現を図る。また、ICTを通して「デジタル・シティズンシップ教育」を推進し、よりよい使い手を育成するとともに、児童・生徒が自ら考え議論し、自ら実践できる力を育む。

（ウ）「おおさわ学園小・中一貫カリキュラム」を活用し、学園研究の成果を反映させ、更なる充実を図るとともに、実効性について評価・改善する。

（エ）児童・生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を継続する。

（オ）中学校第1学年の数学に小学校の教員が乗り入れて、小学校段階の既習事項等について個に応じた指導をする。また、小学校6年生の算数・体育の時間に中学校の教員が乗り入れて、専門性を生かした指導を行う。

（カ）ユニバーサルデザインの考え方に基づく「分かる授業」を推進するとともに、児童・生徒の状況を踏まえた合理的配慮を適切に行う。

イ たくましい心と体をはぐくむ（心身ともにたくましい人）

（ア）教育活動全体を通して道徳教育の充実を図り、豊かな情操を育み、情緒の安定を図る。また、「いじめ防止対策」等との関連を図りながら実施する。

（イ）全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果などを基に学園の課題を明らかにし、生涯にわたり健康な自立した生活を送るための基盤となる基本的生活習慣の定着や心身の健康・体力の向上を図る。

（ウ）「キャリア・パスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげていく。

（エ）小・小、小・中の交流活動、地域行事への参加・協力、地域との交流活動、ボランティア活動での交流等を進め、豊かな人間性と社会力を育む。

（オ）大規模地震等発生時の防災計画・防災学習を学園として共有する。また、地域の防災訓練への参加等を通して、防災についての正確な知識を学び、高い意識をもつようにする。

ウ 協働する学園（心豊かで共に生きる人）

（ア）学園教職員が児童の権利に関する条約の4つの原則を理解し、教職員同士、教職員と関係機関や地域と連携・協働できる体制を整備し「チームおおさわ」を醸成する。

（イ）地域行事やおおさわ学園行事等に進んで参加することや地域貢献活動を行うことにより、地域から学ぶとともに、ふるさと「おおさわ」を愛する心を育てる。

（ウ）地域の教育資源・地域人財の効果的・計画的参画を図り、児童・生徒の「人間力」「社会力」を育む。

### （3）コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校としての重点

ア コモンズとしての学校づくりを目指し、「学校3部制」の「第2部」「第3部」との連携・関連を図り、地域資源や地域人財を効果的、効率的に活用し地域との連携・協働を一層推進する。

イ 学園・学校評価を通じて、保護者や地域、コミュニティ・スクール委員の意見を学園運営に反映させる。また、コミュニティ・スクール委員会は、熟議や研修等を取り入れ、課題解決を行い、委員が学園の基本方針や経営計画作成等に参画する会としていく。

ウ 「おおさわ学園9年間の生活のきまり」を徹底し、生活指導の充実を図るとともに、学園交流を積極的に行い、学園一体となって教育活動を充実させる。

エ 発達段階に応じたキャリア・アントレプレナーシップ教育を通して、主体的に学ぶ力と発表力を育成する。その際、地域人財を活用し、地域と連携した取組を行う

オ 学園の教育目標及びコミュニティ・スクール委員会および地域学校協働活動本部「おおさぼ」と協働した取組を積極的に発信することにより、地域社会と一層の連携・協働を図り、スクール・コミュニティの創造を推進する。

カ スクール・コミュニティ推進員を核とし、教育ボランティア活動を推進するネットワークづくりを行い、地域人財の教育活動への参加を拡大する。また、「みたか地域未来塾」も連携させ、学習習慣の定着を図る。

キ 小学校において、中学年から学年内教科担任制を実施し、基礎的・基本的内容の定着及び発展的学習による個性の伸長を図る。

ク これまでのオリンピック・パラリンピック教育の取組を学校2020レガシーとして、引き続き実施する。



## 2 指導の重点

### (1) 各教科

- ア 各教科・領域で「三鷹市小・中一貫カリキュラム（更新版）」を活用した授業実践を行い「おおさわ学園小・中一貫カリキュラム」を更新し、9年間の連続性と系統性のある指導を行い、特に読み解く力や書き表す力をつける。
- イ 小・中学校間で教員が算数・数学および体育で、相互乗り入れ授業を行う。また、小学校中・高学年で一部教科担任制による授業を行い、教科の連続性の視点で指導方法の工夫改善を図る。
- ウ 小学校と中学校の「算数・数学」、中学校の「英語」について、少人数習熟度別指導を実施する。その際、「東京方式 ガイドライン」に基づいた指導体制でコースごとの指導計画を作成し、児童・生徒の習熟の程度や関心・意欲に応じた学習活動を展開する。
- エ 「三鷹『学び』のスタンダード（家庭版）」を基に、家庭と連携し、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、家庭学習の充実を図る。また「三鷹『学び』のスタンダード（学校版）」を主体的・対話的な深い学びを実現していく。
- オ 児童・生徒の実態に応じて、学習指導員やボランティア、みとか地域未来塾を活用し、補充学習や個別指導を実施し基礎的・基本的内容の定着、発展的学習による個性の伸長を図る。また、地域資源の活用を通して主体的・対話的で深い学びを実現し、児童・生徒の生きる力をはぐくむ。
- カ 1人1台の学習用タブレット端末を活用して、新たな教材や学習活動も工夫し、個別最適な学びや協働的な学びの充実を図り、確かな学力を育成するように取り組む。
- キ 三鷹市学力テストにおける一人一人の経年変化を適切に分析し、学びに活用するとともに、個別最適な学びを行い、誰一人取り残されることない学習活動を推進する。
- ク 児童・生徒が主体となって話し合い、互いの違いに配慮しながら良き利活用に必要な約束を考える「デジタル・シティズンシップ教育」に計画的に取り組んでいく。

### (2) 道徳

- ア 「特別の教科 道徳」の実施を通じて「考え、議論する道徳」を実践し、自分とのかかわりの中で考える力や多様な考えと出会い交流する力を育む。
- イ 教科書を使用し年間指導計画に沿って、小・中の接続や地域を念頭においた実践を行い、児童・生徒の道徳性を涵養する。
- ウ 道徳授業地区公開講座や道徳科の授業に保護者や地域の人々が参画する機会を設定し、社会性や規範意識、正しい判断力を育成する。
- エ 「いじめ防止対策」との関連を図り、自己肯定感を高め、自他ともに「命」を大切にし、思いやり、認め合う人間関係をつくる。

### (3) 総合的な学習の時間

- ア 「おおさわ学園カリキュラム」に基づき、地域の人や自然とふれ合う活動を通して地域社会との交流を深め、地域から学ぶとともに、ふるさと「おおさわ」を愛する心を育てる。特に国立天文台との交流を計画的に実施する。
- イ 9年間の発達の段階に応じたキャリア・アントレプレナーシップ教育の実践を推進し、コミュニケーション力、表現力等の育成を図る。
- ウ 防災計画・防災学習を学園として共有する。また、地域の防災訓練への参加等を通して、防災についての正確な知識を学び、高い意識をもつようにする。

### (4) 特別活動

- ア 「ふれあい音楽交流」「部活動見学」「運動会ボランティア」などを通して、校種の違いや年齢差を越えた異学年交流を行い、健全な心の伸長を図る。
- イ 「キャリア・パスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなげていく

#### (5) 特色ある教育活動

- ア 防災計画・防災学習を学園として共有する。また、地域の防災訓練への参加等を通して、防災についての正確な知識を学び、高い意識をもつようにする。
- イ 野川やほたるの里・三鷹村、国立天文台や国際基督教大学などの地域資源や地域人財を活用し、学ぶ。特に国立天文台との交流を計画的に実施する。
- ウ コミュニティ・スクール委員会および地域学校協働活動「おおさぼ」と連携した「おおさわ学園 アクションプラン」を活用し、児童・生徒、保護者、地域が一体となり健全育成、スクール・コミュニティの創造を進める。
- エ オリンピック・パラリンピック教育を学校2020レガシーとして、特に学園・学校におけるボランティア等の取組みを発展させるとともに、家庭や地域を巻き込んだ取組により共生・共助社会を形成していく。
- オ 学園合同で児童・生徒の命を守るための「引き渡し訓練」を行い、家庭とともに防災意識を高めていく。
- カ 食育研究指定校を学園として取り組み、学校給食を中心として児童・生徒が生涯にわたって健やかに生きていくことができるように、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けさせる食育を一層推進する。また、地産地消の観点から市内産の農産物の更なる活用を図り、児童・生徒による給食メニューの開発や保護者等対象の講演会等を実施し、食育の必要性を啓発していく。

#### (6) 生活指導

- ア 「おおさわ学園9年間の生活のきまり」を基に、生活指導の充実を図る。特に、挨拶・言葉遣い・時間を守る・身の回りの整理整頓・忘れ物に重点を置いて、小・中一貫した指導を行う。
- イ 「三鷹市いじめ防止対策推進基本方針」を踏まえ、3校のいじめ防止対策委員会が連携を図りながら、学園として組織的に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に当たりいじめの根絶を目指す。また、いじめ・不登校・暴力行為等の問題に対しては、児童・生徒が自ら考える機会をもち、児童会・生徒会で話し合い具体的な取組につなげていく。
- ウ デジタル・シティズンシップ教育と合わせて、個人情報管理やモラルに関する指導を通して、高度情報社会での危機管理意識を養う。
- エ 「SOSの出し方に関する教育」を各校の安全教育年間指導計画に小5、6年、中1～3年で1時間位置付け指導を行う。
- オ 長期欠席・不登校児童・生徒について「登校支援シート」を活用した組織的な取組を行うとともに「校内通級教室」、「A-Room（適応支援教室）」等関係機関との連携を図り指導に当たる。
- カ コミュニティ・スクール委員会と連携し、保護者、地域、関係機関と連携を取り指導を行う。
- キ 学区内小学校1校は、浸水危険地域にある。小学校および中学校は避難所となるので、浸水および避難所の設営の際の訓練も火災、地震、不審者等侵入対策等に加え、コミュニティ・スクール委員会と連携し、保護者、地域、関係機関と連携を取り実施する。
- ク 児童・生徒の意見を表明する権利を確保するために、「児童生徒代表者会」や「CS委員と児童生徒懇談会」等を設定し、児童・生徒の意見表明・参加の促進を行う。

#### (7) 生き方・進路指導

- ア 地域資源や地域人財に学ぶ体験などを通して、おおさわ学園カリキュラムに基づいたキャリア教育を行い、児童・生徒一人一人の望ましい勤労観、職業観を育て、自分の未来や進路を切り拓く力を育む。



(8) その他

- ア 多様な児童・生徒を誰一人取り残さない一人ひとりを大切にする教育の実現に向け、デジタル技術も適切に活用しながら、「個別最適な学び」と地域人財や地域資源の活用を含む「協働的な学び」の一体的な充実を図り主体的・対話的で深い学びを実現し、児童・生徒の「生きる力」をはぐくむ。
- イ 教育支援学級・特別支援学校との交流・共同学習を通して、障がいについての理解を図り、ノーマライゼーションの考え方を浸透させていく。
- ウ 校長、教育支援コーディネーターを中心に、校内委員会を組織し、個々の具体的な支援策の検討を行う。また、小・中一貫教育校のメリットを生かし、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成し、児童・生徒の実態に即したきめ細かい指導を行う。
- エ 「三鷹市校内通級教室実施方針」に基づく「校内通級教室」の指導を十分に機能させるとともに通常の学級でのユニバーサルデザインに基づいた指導を心がけ、教育支援の充実と個別最適な学びを目指す。

## 2 学校・学級の教育目標

## (1) 学校の教育目標

夢 学び 心 — 生き生き すこやかに —

## (2) 教育支援学級の教育目標

【夢】 願いや目標をもち、その実現に向けて取り組む力

【学び】 学ぶ楽しさを知り、自ら積極的に学ぶ力

【心】 自分と友達を大切にし、思いやりのある力

## (3) 学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

ア 児童一人ひとりの個性と障がいの実態把握を十分に行い、個々の発達の段階や本人・保護者の思いを考慮した個別指導計画と個別的教育支援計画を作成する。

イ 児童一人ひとりの障がいの特性や困り感を理解し、それぞれの心情に共感することで、児童との信頼関係を形成して指導する。

ウ 学習用タブレット端末を効果的に活用し、個別最適な学びを図る。児童が満足感や達成感が得られる教育活動を展開することで、児童の自己肯定感を高め、願いや目標をもたせる。さらに、その実現に向けて取り組む意欲を育てる。

エ 国立天文台を中心とした地域人財・施設や自然の活用を通して、児童の興味・関心を高め、意欲的に学び、体験的・探究的な学習に取り組む。

オ 高学年の児童が学校の合言葉を決め、子どもファースト・子ども主体の学校づくりを行い、児童の主体性を育て、自己肯定感、自己有用感を高める。仲間同士の関わりを大切にし、主体的・対話的で深い学びができる学習活動を取り入れた指導を行い、協動的な学びを図りながら思考力・判断力・表現力等の豊かな児童を育てる。

カ 豊かな心の醸成の推進のために、児童の身近な体験や教材を通して自他の心情を伝え合い、自他の存在を認め、互いを尊重する豊かな心を育てる。そして、自他共のウェルビーイングを目指す。

キ 年間を通して、通常の学級との交流計画を作成し、共に学び合える教育活動を行う。可能な児童については、通常の学級との教科交流を進める。

ク 児童の指導・支援に対する共通の理解を図り実践するために、保護者や専門機関と連携し、職員間で情報を共有する。

ケ 外遊び、体育朝会や体育の授業、たてわり班による体育的活動等を通して、全学年の児童の実態に応じた体づくり運動を行い、積極的に健康の増進と体力の向上を図ろうとする意欲を育てる。

コ 近隣の特別支援学校との連携を密にし、通常の学級が行う副籍事業を支援する。

## (4) 学園の教育目標を達成するための学校としての重点

学校の教育目標を達成するための上記の基本方針に沿った教育活動を行うことで、学園の教育目標を達成することができるような充実した活動を行う。

ア 「学校の新しい生活様式」を徹底し、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減するとともに、児童が家庭にいる状況でも学習用タブレット端末を活用した質の高いオンライン授業ができるようにしながら、学校運営を持続する。

イ 全教育活動において学習用タブレット端末を有効活用する中で、令和5年度三鷹市教育委員会「私の行動宣言集」を活用しながらデジタル・シティズンシップ教育を推進し、児童がテクノロジーのよき使い手になることを目指す。

ウ 各教科・領域でサポート隊や地域の自然・教育施設を活用した学習活動を行う。

エ 児童・生徒の交流活動である「ふれあい合唱交流」や「授業見学」、「部活動体験」、「児童会と生徒会の交流活動」、「七中生との交流」、「6年生の自然教室」等を通して、豊かな人間性や社会性を育む。

オ 交流活動を通して、「おおさわ学園小・中一貫カリキュラム」に基づいた継続性、系統性のある指導を通して確かな学力の定着を図る。

カ 国際基督教大学と連携した留学生との交流活動の機会を通して、自他の伝統文化を尊重する態度を養う。

キ 「三鷹市立学校 小・中一貫教育の推進に係る実施方策」を踏まえ、学園の教職員・コミュニティ・スクール委員会・保護者・地域・関係機関との協同を進め、社会に開かれた教育課程を実施する。

ク 児童にきめ細かく寄り添い教育の質的向上を目指し、地域と連携・協働しながら働き方改革を目指す。



## 3 指導の重点

- (1) 各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、各教科等を合わせた指導の重点

## ア 各教科

- (ア) 児童の実態に基づきながら年間指導計画を作成し、通常の学級の教科につながる内容を系統的に行い、知識及び技能の向上を図る。
- (イ) 各教科の基礎・基本の定着を図るために児童の実態を的確に把握し、個別指導計画を立て個に応じた指導を行う。また、算数においては学年を超えた習熟度別授業を行う。思考ツールを活用して確実な理解を目指す。さらに、朝読書を定期的(火水金)に実施し、読書の習慣を付けるとともに、語彙の獲得、豊かな発想や表現力等を身に付ける。
- (ウ) 視覚的な教材・教具を用いたり、体験的な学習を行ったりすることで、「三鷹『学び』のスタンダード」(学校版)を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した指導を行う。
- (エ) 学習用タブレット端末を有効活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指す。
- (オ) 社会科、理科、生活科、家庭科の通常の学級の教育内容の一部を、発達の段階に応じて、生活単元学習の時間に指導する。
- (カ) 児童の実態や発達の段階に合わせた体づくり運動を工夫し、児童が楽しみながら体力を向上させることができるように指導する。
- (キ) オリンピック・パラリンピック教育の学校2020レガシーとして、体育や学級活動を通して、児童の実態や発達の段階に合わせたスポーツのルールやマナーについて指導する。

## イ 道徳

- (ア) 「考える道徳、議論する道徳」になるような授業展開にし、問題解決的な学習や体験的な学習の授業を推進する。また、全教育活動において、相手の気持ちを考えたり話し合ったりする経験を通して、道徳的实践意欲や態度、心情、判断力を育てるとともに、いじめの未然防止を図る。
- (イ) 児童の発達の段階や障がいの特性に応じて、指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの指導方法を工夫し、児童の様子を評価する。
- (ウ) 道徳授業地区公開講座を通して、学校と地域、家庭が一体として道徳教育を推進し、道徳的实践力の育成を図る。

## ウ 外国語活動・外国語

- (ア) 低学年では、外国語活動として15時間、中学年では、外国語活動として35時間、高学年では、外国語として50時間実施する。
- (イ) 指導に当たっては、文部科学省の教材及び教科書等を使用するなど、指導の工夫を図るとともに、知的障がいの特性を踏まえ、児童の興味・関心のあるものや日常生活及び社会生活と関わりがあるものを重視し、コミュニケーションの素地となる資質・能力を育成する。

## エ 総合的な学習の時間

- (ア) 「伝統を引き継ごう」において、和太鼓の演奏に取り組み、曲作りの中で、自分の役割を自覚したり、友達のよさについて気付いたりできるようにする。また、発表の場で、自己表現できるようにする。
- (イ) 当該の学年において、ICT教育、キャリア・アントレプレナーシップ教育、デジタル・シティズンシップ教育の視点を取り入れ、地域の資源を活用し、自ら学び自ら考え、よりよく生きようとする力を育てる。
- (ウ) 総合的な学習の時間の18時間を長期休業中に充てる。この10時間は児童が自分の課題追究に向けて地域の教材を基に探究できるようにする。

## オ 特別活動

- (ア) 係や当番活動、班活動、学級会の活動を通して、協調性や責任感を培う。児童の実態や発達の段階に合わせて、奉仕の精神の大切さを理解させる。
- (イ) 児童の発達の段階や学年に応じて行事、クラブ活動・委員会活動に参加し、通常の学級の児童と共に活動する。
- (ウ) キャリア・パスポートを有効活用し、希望や目標をもって日常生活をよりよくしようとしたり、社会の一員として役割を果たすために必要なことについて主体的に考えて行動できたりするようにする。



第1表の4

学校名 おおさわ学園三鷹市立大沢台小学校(わかば学級)

カ 自立活動

(ア) 全教育活動の中で計画的に行い、各児童の障がいの特性や困り感を主体的に改善・克服できるように、言語療法士や作業療法士と連携して身体機能及び言語の発達を促す。

(イ) 活動の中で児童の情緒の安定を図り、コミュニケーションの力を高める。

キ 各教科等を合わせた指導

(ア) 日常生活の指導においては、遊び・食事・排泄・着脱・整理整頓・登下校・清掃などの学校生活における基本的な生活習慣を身に付けさせる。

(イ) 生活単元学習では、通常の学級の教育課程に基づき、低学年における生活科及び3年生以上の社会科・理科、5・6年生の家庭科の内容の一部を体験的な活動を通して学ばせる。

(ウ) 朝の会では、児童が見通しをもって活動ができるように、一日の予定や行事の事前・事後学習を行う。さらに、挨拶や日時、天気の確認を合わせて指導する。

(2) 特色ある教育活動

ア たてわり班活動・委員会活動・クラブ活動等を活用し、通常の学級との交流を深める。また、おおさわ学園の交流行事や活動を通して、他校や中学生との交流を深める。

イ 生活体験学習や宿泊学習を通して、身近な処理能力を高め、集団生活のルールを身に付けさせる。

ウ 全学年を通し体育科の学習で計画的に体づくり運動を実施し、健康の増進と体力の向上を図ろうとする意欲を育てる。

エ 一昨年度まで6年間取り組んできたオリンピック・パラリンピック教育の成果を2020レガシーとして継続させ、通常の学級との交流学习等、様々な教育活動に取り入れていく。

オ 毎週水曜日の朝を、サポート隊による読み聞かせの時間として設定し、読書に親しむ児童を育てる。

カ 国立天文台に代表される地域の自然や人財を活用した学習を全学年で教科・領域等の年間計画に位置付け、体験的で実感を伴った理解とともに地域を愛する心を育てる。

キ 「生命の安全教育」及び「がん教育」を教科等横断的な内容で行い、児童が将来にわたって健康・安全な生活を送ることができるような資質・能力を高める。

(3) 生活指導

ア 児童の発達の段階に応じて、家庭と連携して基本的な生活習慣を身に付けさせる。

イ 集団生活で必要となる力を、低学年から継続的に指導し、社会性の基礎を育む。

ウ 児童自らが生活の中で、健康・安全の意識を高められるよう、保護者と連携を図り、実際の生活場面を想定しながら指導する。

エ 自分の体や、身の回りのものに関心を持ち、清潔に保とうとする態度を育てる。

オ いじめ防止の基本方針に基づき、人権プログラム等を活用した授業を計画的・意図的に行い、「いじめの定義」を浸透させる。日々の行動観察や定期的な児童との面談、年に3回のアンケート調査等、複合的にいじめの未然防止に努め、早期発見に役立てる。いじめが発見された場合は、「学校いじめ対策委員会」が中心となり、組織的に対応し、早期解決を図る。いじめが表面上ないように見えても最低3か月継続して観察し、解消・解決につなげていく。

カ 不登校児童や欠席数の多い児童に対しては、「登校支援シート」を作成し、シートを基に全校体制で支援を考え、実践していく。また、学校のみならずA-Room(適応支援教室)の活用も視野に入れ、該当児童が適応支援を受けられるようにする。

キ 「東京防災」や「安全教育プログラム」、東京都教育委員会作成の防災教材「防災ノート～災害と安全～」を活用し、自己の危機回避能力と他者の安全に貢献できる資質や能力を、教育活動全体を通して育成する。

(4) 進路指導

ア 将来を見据えた適切な進路選択ができるように、中学校の教育支援学級及び特別支援学校との連携を図り、保護者と連携して学校見学や体験入学等を計画的に進める。

イ 係や当番活動、清掃活動、委員会活動等の体験的な活動を通して、自分の役割を果たす責任感や達成感を味わわせるとともに、望ましい職業観や職業に対する知識や技能を身に付けさせていく。

(5) 交流及び共同学習

ア 特別活動部に交流担当を設け、各学年及び教育支援学級の交流のねらいを明らかにする。年度当初に交流計画を作成して、通常の学級の学年会に参加し、交流を計画的に進める。

イ 中学校の教育支援学級との交流を年間を通じて行い、小学校1年生から中学校3年生までの異年齢集団で様々な活動を行い、役割意識や先輩から学ぶ機会を設定する。



第1表の5

学校名 おおさわ学園三鷹市立大沢台小学校(わかば学級)

ウ 学期ごとに、交流計画が実行されているか、確認する。年度末に、成果と課題をまとめ、次年度の交流に役立てる。

エ 可能な児童については、算数や音楽、図工等の授業で、通常の学級における教科交流を行う。

4 その他の配慮事項

ア 児童の課題やその解決に組織的に対応するため、専門機関や、連携支援コーディネーターなどと連携し、よりよい指導を目指す。

イ 学年を考慮した学級編制を基本とするが、学年の枠を超えた習熟度別グループを編成するなどの指導形態を工夫する。

ウ 連絡帳や学習用タブレット端末等を活用して、家庭との連絡を密にし、共通理解を図る。

エ 言語聴覚士・作業療法士など専門家との連携を図り、教職員一人ひとりの専門性を高め、指導力の向上を努めるとともに、指導方法について改善を図る。なお、言語訓練、作業療法は、個の実態に応じて計画的に実施する。

オ 通常の学級に在籍する教育的支援の必要な児童への支援の仕方について、通常の学級の担任に助言する。